



いのちよう
高知県のいの町

コミュニティ部門

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島

★知

環境保全・景
観保全

高齢者の活
躍

その他(関係
人口の拡大)

のうじくみあいほうじんじょうとう
No.20 農事組合法人 上東

～協定合併による農地の維持管理体制の構築～



農事組合法人上東 設立総会



収穫期を迎えた棚田

取組経緯

- 平成12年度から集落ごとに取り組んでいた中山間地域等直接支払制度を平成21年度に地域で一つに統合。
- 地域の農地維持の核組織「上東地区営農組合」を平成21年に設立。荒廃農地を再生し、地域の農地を守る活動を開始。

取組概要

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせ住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。

取組成果

- 共同機械の利用面積の増加(H21年7.6ha→H29年35.1ha)。
- 新規作物(ニラ、加工用ワサビ等)の面積拡大(H21年1.3ha→H29年2.1ha)。
- ユズ栽培により耕作放棄地の発生防止。
- 「カタシの花祭り」の開催を通じてミュージシャンの山村誠一氏とつながり、共同でPAN(スティーλπ)の学校運営開始。地区外の上東地区ファンが増加。



ゆすはらちよう
高知県梶原町

コミュニティ部門

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島

★ 高知

ジビエ

しゅうらくかつどうせんたーゆすはらにしすいしんいんかい
No.21 集落活動センターゆすはら西推進委員会

～地域で取組む捕獲鳥獣をお金に換える仕組み～



新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー

「ゆすはらジビエ」が広がっています

取組経緯

- 鳥獣駆除に迫られる猟師の意欲減退や担い手が少なくなっている現状、さらには、このままでは先人から引き継いだ農地や森林を守っていけないという危機感から、駆除から産業への転換を図り人も物もお金も循環する活力ある地域づくりを目指してNPO法人を設立し活動を開始した。

取組概要

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入（平成29年度）
- 上記の運営者となる特定非営利活動法人ゆすはら西を設立（平成30年3月）
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用（平成30年4月）

取組成果

- 獣肉解体処理施設稼働1年目にして搬入計画頭数を達成し、ジビエの安定的な供給を強みとして販路拡大につなげている。
- 自立を目指し自分たち自身が動かなければという思いで取り組んだことが評価され、自分たちの気づきや自信につながった。



あきたかたし
広島県安芸高田市

個人部門

山	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛	香川	徳島
	高知	

**若者・学生の
活躍**

ほんだ まさき

個人-1 本多 正樹

～点から線そして円(縁)に...未来を見据えて～



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場

JA広島北部ひろほく農考会が市の功労賞を受賞

取組経緯

- 農地、文化、景観を維持・継承していくためには、1人の活動では難しいと気がつく。
- そこで、同世代から若年者たちに目を向け、きっかけ作りとして点在している人を線で繋いで円(縁)になるような環境作りができるようになればと考え、多様な活動を展開。

取組概要

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を主軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。

取組成果

- 人・農地プランの見直しに当たり、地域や他の担い手農家と連携を取り、担い手間での農地の交換による分散錯ほの解消に努めた結果、経営の効率化や規模拡大に繋がった。(H26年 22.2ha → H30年 47.3ha) 近隣農家・法人にも集積の効果が表れている。
- 10年前の設立時に25名からスタートした「ひろほく農考会」は、現在メンバーが約50名になり、湯崎広島県知事と意見交換会をするなど、地元の認知度も増し、農業に活気が出てきている。



徳島県つるぎ町

個人部門

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

★徳島

高知

農林漁業、農村文化体験

伝統の継承

教育機関との連携

個人-2 西岡田 治 登

～世界農業遺産の農耕と伝統を守る～



花咲くソバ畑



歌いながら「立てずき」で庭先を叩く小学生

取組経緯

○県西部4市町に伝統的に続く「にし阿波の傾斜地農耕システム」の世界農業遺産への登録申請を契機に、平成26年頃から「急傾斜地農耕を実感し、伝統的な農耕行事も楽しんでもらい、次世代に繋いでいきたい」という思いで活動を始めた。

取組概要

○標高300^{メートル}、傾斜30度の急傾斜地の畑20^{ヘクタール}で栽培しているソバの花が満開の毎年9月下旬から10月中旬に観光農園として一般開放し、急傾斜地農耕を実感してもらっている。
○平成27年、旧暦10月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに25年振りに復活させた。

取組成果

- 人口減少等が課題となっている集落に明るさを取り戻している。
- 在京、関西及び県内の大学生が体験学習で訪れるほか、平日でも外国人を含む多くの人が訪れる。テレビ局や新聞社も取材に訪れ、観光農園の訪問者数は、取組開始当初のH26年は60名程度であったがH30年には152名となった。
- 次世代に「お亥の子さん」の伝統行事が伝承されるよう、毎年地域の小学生の参加を得て取り組んでいる。



たかまつし
香川県高松市

個人部門

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島

高知

農福連携

あべ たかひろ
個人-3 阿部 隆弘

～障がい者と農業者の架け橋として～



平成30年度 農作業支援強化研修会・琴平



プラグポットの洗浄作業・観音寺市

取組経緯

- 平成20年頃、県内農家の高齢化が進み、後継者不足のため、作付面積が減少した。また、障がい者は受託作業の減少や自主製品の販売不振から収益が減少した。
- 平成23年にNPO法人が共同受注農作業システムを活用し、農業収益の増額と障がい者の工賃向上を目的とした活動を開始した。

取組概要

- 平成27年に担当コーディネーターとなり、にんじくの定植時期の人員不足を解決した。
- JAと障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明マニュアルの作成を行った。

取組成果

- 障がい者の作業工賃、延べ作業人数、延べ参加施設数を毎年増加させることができた。
- 県内の農家から、障がい者施設の労働力がなくてはならないと厚い信頼関係を築いた。